

醍醐山 家族登山 ■山行日：令和3年10月24日（日） ■参加者：24人

山梨県の「2021年度やまなしで過ごす山の日」イベントの一環として、山梨支部主催の醍醐山家族登山を10月24日（日）に開催した。8月に予定された県主催の大菩薩峠トレッキングは9月に日時を変更したものの、新型コロナウイルスの影響により中止された。山梨支部も慎重に検討を重ねた上で、十分な感染防止策を前提に実行した。

秋の爽やかな晴天下、4組12名に山梨支部員等12名のサポート含め計24名にて実施した。醍醐山はかつて、地方のどこにでもある荒放題の山であった。9年前に東京スカイツリーが開業。スカイツリーの高さと同じ標高634m（ムサシ）であることにあやかり、この忘れ去られた山が地元関係者及び山仲間の協力を得て復権した。日本山岳会会員の協力もいただき6kmの登山道が整備された。ブログなど通じ、今や全国的に知られる山になった。

コースは、JR身延線甲斐常葉駅から鳩打峠を経て頂上、下山路は大子集落・上之平を経て下部温泉駅までの縦走である。甲斐常葉駅で開会式・準備体操後、2班に分かれ登る。標高差400m程度の山は、年齢差関係なく家族登山にはもってこいの山である。随所の展望台から景観を楽しみ、木々に付けられた名札に樹木の名前を学びながら里山の登山道に行く。コロナ禍による2年間の制約の日々が平常に戻りつつある。家族の会話が弾み満面の笑みがこぼれる。頂上までは2.7km。ゆっくりペース、2時間半で頂上に着く。

ここから展望台へ往復、篠井山・十枚山・七面山等静岡県境までの視界が広がる。支部員によるカップ麺サービスがあり頂上にて昼食。この後、参加家族ごと感想を述べていただき懇親を深める。醍醐山テーマソング「希望の醍醐山」を高らかに斉唱し下山へ向かう。

下山路はモミジ回廊をたどる。未だ青々とした広葉樹の森で森林浴を楽しむ。30分下った中腹に消滅した大子集落がある。ここにはかつての日本の風景が残る。更に30分で上之平、15分で終点 湯之奥金山博物館。閉会式にて、家族・スタッフ共に、「良かった、楽しかった」の感嘆の声が上がった。満足感が全身を覆った。（磯野澄也）



